

歐  
州  
便  
り

## 児童病棟雑感

井 村 恒 郎

私は昨年今の頃、欧州の精神病院を見てまわったが、どこへ行つても児童のための病棟がもうけられていたのを見て、たいへん羨しく思つた。ビスマ

ツが、現在は日本よりも速いペースで米英を追いかけているようであつた。

イクの時代に建てられたという古色蒼然たるドイツのある病院でも、旧病棟を改造して児童用にあてていた。また復興して間もないある大学の精神科は、仮住居同然の様子であつたが、その不自由ななかで、児童用の病室や遊戯室の設備をととのえるのに懸命であつた。日本とはだいぶ事情が違つていた。ドイツも日本と同じように、児童のための精神医学は立ち遅れたのであ

つたが、現在は日本よりも速いペースで米英を追いかけているようであつた。ソヴィエット圏内にある東欧のチェッコで、私は幾つかの大学と病院を見学したが、児童の病人のための設備には、西欧よりも一層力を注いでいる印象をうけた。松沢病院以上の大病院を三つ見たが、どこでも二十前後を数える清潔な病棟のうち、一番完備した病棟が児童のために当てられていた。それは病院であると同時に小さな学校のような感じで、食堂や教室や屋内運動場の設備など、なかなか立派なもので

あつた。むろん医者と看護婦のほかに教師と保姆がいて、集団療法や遊戯療法などの新しい治療法を活躍に行つてゐる。ある病院の児童病棟の入口には、扉の上に「子供に平和を」という意味の言葉が大書してあつたが、これはただの標語とは思えなかつた。

その新しい治療法は、私たちがかねてアメリカの書物を読んで知つていた方法と、実際上は殆ど違いがなかつた。これは、私には少々意外であつた。パブロフの理論やマカレンコの方針に基いた、なにか一風変つた治療法を想像していたからである。

改めて言うのもおかしいが、科学に国境がないように、児童の保護の仕方にも、国柄による相違は無いはずである。共通の方向というものがある。これから先き、国による相違が出てくるとすれば、日本の現状では残念なことになるが、遅れているか進んでいるかの違いだけになりそうに思われる。